

## 【2025年度の活動記録】

- 第1回：2025/6/18
- 第2回：2025/7/18
- 第3回：2025/8/5
- 第4回：2025/8/21
- 第5回：2025/9/24
- 第6回：2025/10/13
- 第7回：2025/11/23
- 第8回：2026/1/27
- 第9回：2026/2/20

# 社会倫理学研究会

## 【メンバー】

- 代表 堀内智吉（文D2）
- 堀祐輔（社D3）
- 久保田はな（文M2）
- 成子栞里（文M2）

## 【研究会の目的】

社会学及び倫理学の抱える学問的な課題を、相互にカバーすることで解消しつつ、現代社会の抱える諸問題に対して、創発的な視点を提供することにある。社会学は、社会と人の関わりを実証的に追及する学問であるが、方法論の多様さゆえに学問的正確性を欠いていると批判されている。他方で倫理学は、「幸福とは何か」や「我々はどうすべきか」という命題に対する概念的・理論的構築を行ってきた学問であるが、抽象論に寄るせいで現実を生きる我々の複雑な道徳的判断を正当化できる材料を十分に提示できない。しかしこれら両者の短所は、両者の長所によって補うことができるだろう。本研究会は、**現代社会の抱える諸問題を、社会学的・倫理学的知見から分析することによって、より現実的な次元での解決策を提示していく。**

## 【2025年度の研究内容】

映画やドラマ、ゲーム、SNSなどに代表されるエンターテインメントは、単なる娯楽にとどまらず、他者への共感、善悪の感覚、あるいは社会的価値の内面化に深く関わっている。本年度は、社会学と倫理学の協働によって、現代のエンターテインメントにおける道徳的経験を理論的・経験的に捉え直すことを試みる。

## 【活動形態】

- ・大学施設での対面開催／Zoomでのオンライン開催
- ・担当者が自身の関心をもとに研究発表を行い、他のメンバーからフィードバックをもらう

## 【研究成果】

・堀内智吉「定言命法の陥穽——デュルケムのカント批判から」、日本倫理学会（口頭発表）〔査読あり〕

・堀祐輔  
「余暇開発センターの解散と地域共生社会：「時間とは幸せとは：自由時間政策ビジョン」再論」、唯物論研究協会（口頭発表）〔査読あり〕